

分離等位接続主語の先行研究におけるこのような取り扱い、上述の意味的、形態統語的特徴を説明するうえでいくらかの修正が必要になる。(4b)の統語表示が(4a)のようであるならば、解釈上ひとつの構成素とみなされることは説明できる一方、動詞は複数屈折を示すと予測されるため、一致の仕組みを修正する必要がある。また、(4c)の統語表示を認めれば、主語はそれぞれの INFL と一致するため、動詞が単数屈折することには説明が与えられるが、ふたつの出来事が存在することになるため、当該の事例の適切な解釈を得るためにはさらなる説明が必要と思われる。

3. DP の等位接続の統語構造と分離等位接続主語

解釈上ひとつの構成素とみなしながら、動詞が一致するのは第一等位項のみであるという分離等位接続主語にみられる特徴、そして、非分離形式の場合には動詞が第一等位項と第二等位項全体と動詞が一致するという事実が、分離形式と非分離形式における等位接続の内部構造の違いを示していると提案する。

まず、(3b)のような非分離形式には、(1a)のような統語構造が関わっていると考える。本稿では特に、Chomsky (2013)の方式に従った(5)の統語派生を採用する。ここで、DP¹とDP²の外併合によってβが、さらにConjの導入により、αが形成され、DP¹のαとの内併合で統辞体γが形成される。さらに、Chomsky (2013, 2015)のラベル付け計算法に基づいて、(5c)のように各統辞体のラベルが決定されると仮定する。一方、(3c)のような分離形式には、(1b)のような付加詞分析が関わっていると考え、(6a)で形成されたαが、(6b)のようにDP¹に対併合し、最終的に(6c)のようにラベルが付与されると仮定する。

- | | | | | | |
|-----|----|---|-----|----|--|
| (5) | a. | [_α Conj [_β DP ¹ DP ²]] | (6) | a. | [_α Conj DP ²] |
| | b. | [_γ DP ¹ [_α Conj [_β DP ¹ DP ²]]] | | b. | [_γ DP ¹ [_α Conj DP ²]]] |
| | c. | [_{DP1} DP ¹ [_{ConjP} Conj [_{DP2} DP ¹ DP ²]]] | | c. | [_{DP1} DP ¹ [_{ConjP} Conj DP ²]]] |

どちらの派生方法でもDP¹とDP²はひとつの構成素を成すため、例え分離することになっても解釈上のまともは保障される。また、どちらの場合でも、最終的にはDP¹のラベルが付与されるものの、集合併合で構築される(5)の構造が、主語として導入され、TとAgreeする際には、DP¹もDP²も可視的である一方、対併合が関わる(6)の構造では、DP¹のみがAgreeに対して可視的であるという違いがある。このことから、(5)の構造からは動詞の複数屈折が、(6)の構造からは動詞の単数屈折が引き起こされると説明される。この立場をとった場合、(5)の構造からは分離形式が生じないことになるが、これは、(5)のConjPが、従来、移動操作が適用できないとされる中間投射に相当することを考えると理論的に自然と思われる。一方、対併合によってConjPが導入される(6)の構造ではConjP自体が付加部であるので、これの外置には問題が生じない。この対比は、Sauerland (2002)で指摘された、繰り上げ分析で形成された関係節は外置できず、照合分析によって形成された関係節は外置ができるという対応関係と並行的だと考えられる。分析の詳細は省くが、関係節の外置の可能性の対比を示す事例は以下をみられたい。

- | | | | |
|-----|----|--|------------------------------------|
| (7) | a. | * I saw the picture of himself yesterday that Bob wrote. | |
| | b. | I saw the picture of myself yesterday that John liked | (Hulsey and Sauerland (2006: 206)) |

4. 結語

本稿では、等位接続構造には集合併合で形成されるものと、対併合で形成されるものがあると考え、分離等位接続主語は後者の構造をもつと論じた。その構造の下で、分離等位接続主語の示す意味的・形態統語的特徴が説明可能であることを示した。

主要参考文献

Goodall, Grant (1987) *Parallel Structures in Syntax*, Cambridge University Press, Cambridge. / Hulsey, Sarah and Uli Sauerland (2006) "Sorting Out Relative Clauses," *Natural Language Semantics* 14, 111-137. / 岩田良治 (2008) 『英語の不連続構文の歴史的考察』、英光社、東京。 / Kayne, Richard (1994) *The Antisymmetry of Syntax*, MIT Press, Cambridge. / Mitchell, Bruce (1985) *Old English Syntax*, Vol 1, Clarendon Press, Oxford. / Munn, Alan Boag (1993) *Topics in the Syntax and Semantics of Coordinate Structures*, Doctoral dissertation, The University of Maryland. / Reszkiewicz, Alfred (1966) "Split Constructions in Old English," *Studies in Language and Literature in Honour of Margaret Schlauch*, ed. by Irena Dobrzycka, Alfred Reszkiewicz and Grzegorz Sinko, 313-326, Polish Scientific Publishers, Warszawa. / Sielanko, Elzbieta (1995) "Split Coordinated Structures in late Old English," *Studia Anglica Posnaniensia* 29, 57-72.